

善三郎の諸氏外に三島彌太郎、郷誠之助、服部金太郎、大橋新太郎、藤山雷太、高田慎藏、志村源太郎、志立鐵太郎（東京）土居通夫（大阪）濱田元哲、田中源太郎（京都）瀧川儀作（神戸）原富太郎、茂木惣兵衛（横濱）の諸氏出席午餐を共にしたる後會議に入り先づ大隈首相より

研究所設置に關する從來の經過に就て報告し政府は既に補助金交付に關する法律案を制定し殘る處は民間の寄附金募集の一段のみとなれり而して固より研究所設立の必要は茲に呶々を要せざる所なれば速に賛助を得たしとの意味の挨拶あり次いで澁澤男より從來の準備經過に就き詳細報告する所あり河野農相は更に痛切なる希望を述べたる後

今日世界の競争は産業軍事其他科學の競争にして所詮は發明の競争に存するか故に理化學研究所の設立は朝野の輿論なりといふを憚らす願くは一日も速に賛助あらんことを望む

との挨拶を爲し豫て準備委員長に於て作製せる「理化學研究所設立協賛規定」並に其他の豫算書類等を配付したる後澁澤男は再び起ちて

今日既に實行に入り如何にして民間寄附金を募集すへきや則ち其方法如何の問題を決するを以て最も喫緊の事なりと信す過般十二名の委員は政府に建議案を提出して政府より二百萬圓の補助を仰ぎ全部の殘額五百萬圓の寄附

を募集することなれば既に諸君の承認せる所ならんと信す予は此際左記各項に就き諸君の承認を得たる上着々實行の運びに至らんことを望まざるを得ずとて左記事項を附議したるに何れも異議なく之れを承認し午後三時二十分散會せり。

▲決議事項

- 一、本日集會の各委員を發起人となすこと並に本日招待せる者は發起人たるの承認を求むること。
- 二、將來地方の事情により更に發起人を増す場合あるへし。
- 三、現在の創立準備委員に於て更に少數の創立委員を推選し民間有志の寄附行爲に關する運動を爲すこと。

●帝國學士院授賞式 帝國學士院に於て本月二日午前十時より恩賜賞及帝國學士院賞の授賞式を舉行せり、其次第左の如し。

院長の演説、會員文學博士芳賀矢一同文學博士井上哲次郎同醫學博士緒方正規同理學博士長岡半太郎同理學博士田中館愛橋の各授賞理由の説明あり、次で院長より左の通恩賜賞及帝國學士院賞を順次各受賞者に授與し内閣總理大臣の演説、宮内大臣及文部大臣の祝辭ありて午後零時三十分式を終れり。

一、恩賜賞 假名に關する研究

一、同 周公と其時代

一、同 黃疸出血性「スヒロヘーテ」病に關する研究

一、帝國學士院賞與無線電信電話に使用する電氣振動間隙に關する研究

大 矢 透

文學博士 林 泰 輔

醫學博士 稻 田 龍 吉

工學博士 井 戸 泰

鳥 湯 右 一
山 井 恒 太 郎
横 山 英 太 郎
北 村 政 次 郎

鳥 湯 右 一
山 井 恒 太 郎
横 山 英 太 郎
北 村 政 次 郎

一、同 鐵に關する研究 理學博士 本多光太郎

宮内大臣祝辭

國字の源流を研鑽して古昔の沿革を闡明し述作を涉獵して人物を評論し病原を膏肓に採りて仁壽を必躋に期し電氣の振動を整へ鐵性の變化を究め或は以て利用厚生之道を擴め或は以て文籍の闕遺あるを補ふ等勞多くして功大なりと謂ふ可し授賞の典當に諸氏の榮たるのみならず抑々學界の光輝を發揚して聖世の文化を論議する所以なり聊微意を表して茲に盛事を祝す。

文部大臣祝辭

篤學研精の士學界の各方面に涉りて乏しからず賞賜を本院に受くるもの年々多きを加ふ是洵に昭代の慶事にして本大臣の欣喜に勝へざる所なり。今茲選に膺りて受賞の榮を荷ふもの大矢透文學博士林泰輔醫學博士稻田龍吉井戸泰工學博士鳥湯右一鯨井恒太郎横山英太郎北村政次郎理學博士本多光太郎の九氏其の專攻せる所同しからずと雖も前人未發の學理を闡明して學術の進歩に貢獻せる功績の著大なるに至りては則ち一なり。

惟るに世界の大戦は未だ其の局を結ぶに至らず將來の大勢之を逆睹すへからずと雖も戦後に於ける平和の戦争の頗る激烈なるものあるへきは蓋し之を豫想するに難からず而も其の最後の勝利を制する必ずや之を卓越せる學術の力に俟たざるへからず本大臣は九氏の爲に其光榮を祝し益々奮勵して力を我が學界の進歩に致されんことを冀ひ世の學者亦先達之士の爲す所に倣ひて研鑽磨勵者々其の効果を擧げて國運の發展に資けんことを望むや切なり。之を祝辭とす。

理學博士本多光太郎君の鐵に關する研究に

關し田中館理學博士の講演大要

本多光太郎君種々の金屬の磁性其他の性質に就きて明治三十一年以來研究せられたる結果が學術上重要なもの甚だ多く殊に鐵に關する同君の研究は特出せるものにして逐一之を縷述するは殆ど不可能なれば最近の主要なる研究に就き其概略を摘記することに止む。

冶金學上鐵か α 、 β の諸状態にあることは屢論せられし所にして其間に顯るゝ變化に伴ふ特種の物理的現象は往々研究せられたるも多くは單に其一斑に過ぎず之を以て其變化の如何なる種類のものなるやは憶測に止まるも

の多くして其真相を明にしたるものなし近年歐米諸國に於て此研究に著目するもの數多ありと雖も未だ本多君の如く十分なる研究を遂げたるものなし。

鐵の諸状態に伴ふ變化は A_1, A_2, A_3, A_4 と稱す其特證は熱を發生し熱膨脹、比熱、電氣抵抗、熱電氣、磁性、彈性及び結晶状態に變異を生ずるにありて其關繫する所頗る雜多なるを以て其觀察も亦多方面なるを要す而して本多君は特に A_2 變化の研究に従事し所謂 α 鐵なるものゝ存在に就き攻究する所ありたり抑 A_1, A_3 及び A_4 の變化は最顯著にして之に伴ふ物理的變化も亦容易に探究し得べしと雖も A_2 變化に關しては之を生ずる溫度區域の約壹百度に亘るを以て困難視せられたり然も此變化は鐵を熱する場合と冷却する場合とに於て若干の差異あるを以て益其研究を困難ならしめたり。本多君は最初 A_2 變化に於て溫度の昇上若くは降下に伴ふて吸收若くは發生する熱量を測りて溫度の變動に對する熱量の割合を實驗し其狀況緩漫にして而も A_1, A_3 變化の如く急激なることなく大抵七八百度附近に於て三十度より四十度内に跨り稍著しき變化ありと雖も其區域は多くの鐵に於て約百度間に亘るを認めたり而して「ニッケル」及び「コバルト」の如き磁性の金屬に於ても亦之に類する緩漫なる變化あるを認めたり又炭素を含む鋼鐵にありても亦 A_2 變化は常に顯著なりと雖も炭素量の増加するに従ひ A_2 變化は熱の變りに由りて容易に觀測すへからざるに至り炭素が百分の〇・七五以上に含まるゝときは A_2 變化は熱的に遂に認むへからず。

斯の如く多種の鐵、鋼等に就き重要な觀測を遂げたるは本多君を以て嚆矢とす而も同君は殆ど二十年來磁性に關する研究を以て學界に名を知られ高溫度に於ける磁性に關する同君の研究は在來の研究に卓越せるもの尠からず而して所謂 A_2 變化に伴ひ鐵磁性は次第に減少し殆ど認むへからざる程度に達するものにして是等の磁氣變異は同君が獨り鐵に就き研究せられたるのみならず諸種の鋼、鐵、「ニッケル」鋼、「ニッケル」コバルト」等に就きても遺漏なく研究せられ結局 β 鐵なるものは純鐵にありては臨界溫度及 A_2 變化の間に介在するものなることを明かにしたり。

A_2 變化は鐵を熱し或は冷却する速度の如き事情が影響するや否を試験せしに其毫も影響なきことを確めたり而してこの變化は磁性の變動に伴ふを以て磁場を異にするとき熱の發生に増減ありや否を試験せしに是れ亦毫も其痕跡を認むる能はず「ニッケル」に於ても同様なるを見たり。

電氣抵抗が A_2 變化に伴ひ急變することは屢論せられたる所なるか本多君